

専門書  
教育関係者、  
行政・武術研  
究者向け

講道館



# 格闘武術・柔術柔道書集成

民和文庫研究会編

企画・編集責任者 中村民雄 (福島大学名誉教授)  
石井隆憲 (日本体育大学教授)

## 第Ⅱ回

# 昭和(戦前期)の格闘武術・柔道書

全八巻

昭和(戦前期)に入りスポーツ界は、国際水準に達し急速に成果を上げるとともに、アジア初のオリンピック開催が決定した。また、武道の中にも空手や合気道といった新しい種目が芽を吹き出した。

しかし、昭和13年(1938)5月、嘉納という巨星が落ち、オリンピック返上とともに国際協調を旨としたスポーツや柔道が否定され出した。特に、同年1月に新設された厚生省が、国防力としての体力の国家管理を目指してスポーツ界を総動員化し始めたことにより、国防力としての「肉弾体武」を謳った稲葉太郎が分派活動を起こし、分裂の危機を迎えた。

『昭和(戦前期)の格闘武術・柔道書(全八巻)』の刊行について

民和文庫研究会代表 (福島大学名誉教授) 中村 民雄

大正七(一九一八)年原敬を首班とする立憲政友会内閣が成立し、昭和七(一九三二)年、五・一五事件で犬養毅内閣が倒されるまでを政党内閣の時代という。この時期のスポーツ界は、国際水準に達し急速に成果を上げ、アジア初のオリンピック開催熱が高まった時期と重なる。その後は、満州事変から日中戦争、アジア・太平洋戦争へと急速に戦争が拡大し、昭和二十(一九四五)年八月、ポツダム宣言を受諾して無条件降伏する。その二十年間を見通すこととする。

政党内閣の時代は、大正デモクラシーと言われた社会のあらゆる面で自由主義が華開いた時期でもある。廃れつつあった古流柔術は「柔道整復術」に活路を見いだし、沖繩から出てきた富名腰(船越 義珍は大正十一(一九二二)年五月、講道館で嘉納はじめ高段者の前で唐手(のちの空手道)を披露した。この時から嘉納に物心両面の援助を受けながら沖繩唐手の普及に尽力した。また、柔道の内部でも他の格闘術との比較検討が進み、昭和三(一九二八)年から棒術の稽古を採り入れ、昭和五(一九三〇)年には合気武術(のちの合気道)の研究へと進み、若い弟子を入門させている。さらに、ボクシングやレスリングの研究も行い、特にレスリングは「講道館道場」にはレスリングのマットを新設してレスリングの先輩田口、八田、鈴木氏等と共に柔道とレスリングの比較研究を始めた。『(東京朝日新聞、第二六、五九四号、昭和七年七月九日)』と報じられた。

この流れは学校体育にも及び、大正デモクラシーの影響を色濃く反映した体育学者の研究成果による、スポーツやダンス教材を柱とした第二次改正学校体操教授要目が昭和十一(一九三六)年に公布された。その一方で、武道教材に代表される体育の日本化剣道・柔道の教授要目が制定され、教材に講話が入る)も推し進められていった。この体育の日本化(これを「日本体育道」という)は、昭和十(一九三五)年三月二十三日、衆議院本会議で「国体明徴に関する決議案」が可決され、それまで美濃部達吉が提唱してきた天皇機関説を「崇高無比なる我国家と相容れざる言説」として大幅な手直しを求め、「日本精神」が鼓舞されたことを受けたものでもある。修身とともに武道教材の「講話」は、この「日本精神」を教える教材として重視された。

昭和十三(一九三八)年五月四日、嘉納治五郎は、来る皇紀二六〇〇(一九四〇)年オリンピック東京大会の開催に信任を得たカイロ会議からの帰路、水川丸船上で帰らぬ人となった。嘉納という巨星が落ちるとともに、国際協調を旨とした嘉納イズムのスポーツや柔道は否定され、講道館への風当たりも一段と厳しくなっていた。同年一月に新設された厚生省は、国防力としての体力の国家管理を目指してスポーツ界の総動員体制を推し進めていった。そうした時代を背景に、大日本武徳会武道専門学校の教授職を辞した稲葉太郎は、国防力としての肉弾体武の組織化を提唱し、講道館からの分派活動をしたため破門されることとなった。

しかし、国防力としての体力の国家管理は、昭和十七(一九四二)年、大日本体育協会並びに大日本武徳会を改組して政府の外廓団体とすることで完成したが、時すでにおそしであった。

講道館に反逆の廉で

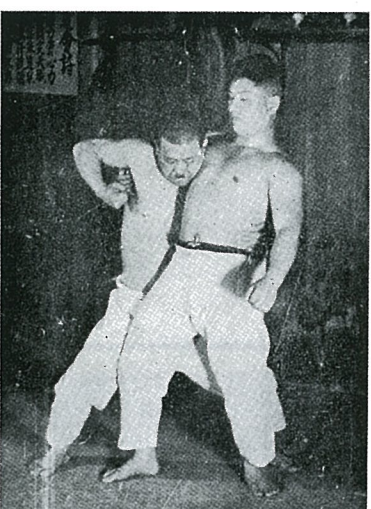
稲葉七段、三氏破門

開設五十年空前の處断

昭和十二年十二月二十七日讀賣新聞其他全国

滿洲朝鮮臺灣各地新聞紙に掲載

柔道の大山たる講道館では去る廿二日講道館の最高會議たる總會を開いた結果、同會の決議に基き七段稲葉太郎(京都)五段中山元(大阪)五段山本(和歌山)の三氏を破門に處し同時に地位を喪失する旨を決定し三氏を破門するに決意した。右三氏はかねて講道館の主義綱領をあたふたとすとして斬りき柔道の出現を阻害したと知らしめた。



體は即ち 天照大神 玉を左に しがらみ 體武は速 神武なり 日本武徳會 當 減 擊 武 體

第八巻「皇化神柔道昭和柔道維新史」より新聞記事

第八巻「柔道維新日本伝肉弾体武」より体式撃滅当

第三章 捕手術の型
其の二 銃劍對長刀又は短劍
武士は一步飛び下ると共に、敵手の刀を左方より右下方に巻き落して押へたる後左足を左前方に踏み込み、敵手の手元に入り、左手を以て其の左手を右腕の上より刀の柄頭と共に握り、此れと右手の刀を以て敵手の刀を柄頭に刀身部下になす如く垂直にして敵手の左手首の逆を取り、體を左方に旋回しつつ、右腕を敵手の右腕に掛け、此れを仰臥の姿勢に倒し、刀を握りたる後三章第一款其の二(第二本)の要領により縛す。(第二十二圖参照)
第二本 兩手面斬、仰臥(長刀對短劍)
「始めの號令を以て敵手は前項第一本の要領により武士の面を臨みて斬撃す。武士は一步飛び下がると共に敵手の刀を右方より左方に巻き落して押へたる後、體を右前方に運

其の二 銃劍對長刀又は短劍
第一本 側突、仰臥(銃劍對長刀)
「始めの號令を以て敵手は銃劍を武士は長刀を左段に構へ、互に隙を窺ひ敵手は武士の土胸又は下腕を臨みて突出す。武士は一步飛び下がり、僅かに體を左方に開くと共に、刀刃を以て銃劍を左方に打ち掃ひ、敵手の

其六 二段變化 其六
(一) 甲 右足を前にする同時に、右拳に敵の顔面を突く。
(二) 乙 左足を後歩開いて、身元を右拳の中心とし、左拳を右腕の直前に構えて、左拳で敵の腕を捉へ、右拳で敵の腕を突く。
(三) 丙 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。
(四) 丁 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。
(五) 戊 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。
(六) 己 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。

合気投げ
八十三
(一) 甲 右足を前にする同時に、右拳に敵の顔面を突く。
(二) 乙 左足を後歩開いて、身元を右拳の中心とし、左拳を右腕の直前に構えて、左拳で敵の腕を捉へ、右拳で敵の腕を突く。
(三) 丙 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。
(四) 丁 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。
(五) 戊 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。
(六) 己 甲の腕を左腕に構へ、左足を左に踏み出し、右拳を右腕の外側に構へ、右拳で敵の腕を突く。

第一巻「空手道教範」より二段變化

第二巻「武道練習一巻之壹」より立業 合気投

〔第一巻〕唐手・空手道

空手道教範

- 富名腰義珍／一九三五年／大倉廣文堂
- 創立十周年記念空手道集成 第一巻
- 松本信雄／一九三六年／慶應義塾体育會空手部

〔第二巻〕合気武術・合気道

- 武道練習一巻之壹
- 植芝守高／一九三四年／自刊
- 武 道
- 植芝盛平／一九三八年／自刊
- 惟神の武道門外不出大東流合気武道秘伝
- 久 琢磨／一九四〇年／自刊

捕技秘伝

- 久 琢磨／一九四一年／自刊
- 柔道に於ける 離隔態勢の技の体系的的研究—柔道原理と合気武術の技法—
- 富木謙治／一九四二年／建國大学研究院

〔第三巻〕捕手術

- 警察武道速捕と護身
- 高橋敦良・大串為八・調所武熊／一九三〇年／松華堂書店

捕手術解説

- 堀田捨次郎編／一九三二年／新建社書房
- 捕手術使術
- 安城 浩／一九三六年／自刊

〔第四巻〕柔 道(1)

- 最新柔道教範(全三冊)
- 永岡秀一・櫻庭 武／一九三〇年／東京開成館

〔第五巻〕柔 道(2)

- 日本体育叢書 第十八篇 柔道
- 工藤一三／一九二九年／目黒書店
- 柔道審判規程解説
- 村上邦夫／一九三四年／一成社
- 昭和の柔道
- 松岡辰三郎／一九三五年／博文館

〔第六巻〕柔 道(3)

- 現代学校体育全集 学校武道篇第三卷 中学校柔道
- 鹽谷宗雄／一九三七年／成美堂書店
- 新制 柔道教科書

〔第七巻〕柔 道(4)

- 要説柔道教本
- 永岡秀一・櫻庭 武／一九三八年／東京開成館
- 日本教育 柔道要義
- 櫻庭 武／一九四〇年／培風館
- 柔道修行者礼法
- 講道館／一九四〇年
- 少年柔道
- 講道館編纂／一九四〇年／講道館

〔第八巻〕柔道の分派

- 皇化神柔道 昭和柔道維新史
- 康井啓樞／一九三九年／全日本柔道會康井特許法律事務所出版事務所
- 皇道 昭和柔道維新史 日本武道精神の神髓
- 稲葉太郎／一九四〇年／稲葉默道太郎會本部
- 柔道維新 日本伝肉弾体武 附魂之糧
- 稲葉太郎／一九四二年／全日本体武會本部 全日本柔道會本部

第Ⅲ回 昭和（戦前期）の格闘武術・柔道書 全八巻 小山 凜雄 解説

全巻揃定価 153,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-082-3 ※解説は後半のセットに同梱いたします。

- |  |   |
|--|---|
| 第一巻 唐手・空手道<br>定価 23,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-074-8   | 第五巻 柔道(2)<br>定価 19,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-078-6 |
| 第二巻 合気武道・合気道<br>定価 20,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-075-5 | 第六巻 柔道(3)<br>定価 21,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-079-3 |
| 第三巻 捕手術<br>定価 18,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-076-2      | 第七巻 柔道(4)<br>定価 21,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-080-9 |
| 第四巻 柔道(1)<br>定価 16,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-077-9    | 第八巻 柔道の分派<br>定価 15,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-081-6 |

（前半セット 第1巻～第4巻／後半セット 第5巻～第8巻：2020年3月25日刊行）

第Ⅰ回 明治期の逮捕術・柔術柔道書 全六巻

尾川 翔大 解説（2019年5月25日刊行）

- 第一巻 逮捕術・当身活法  
定価 21,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-037-3
- 第二巻 古流柔術(1)  
定価 20,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-038-0
- 第三巻 古流柔術(2)  
定価 14,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-039-7
- 第四巻 講道館柔道(1)  
定価 20,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-040-3
- 第五巻 講道館柔道(2)  
定価 19,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-041-0
- 第六巻 講道館館員名簿  
定価 11,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-042-7
- 揃定価 105,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-043-4

.....  
A5判／上製函入／クロス装／C3337

第Ⅱ回 大正期の護身術・柔術柔道書 全七巻

小山 凜雄 解説（2019年10月25日刊行）

- 第一巻 護身・逮捕術  
定価 15,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-044-1
- 第二巻 女子護身術  
定価 12,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-045-8
- 第三巻 古流柔術  
定価 18,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-046-5
- 第四巻 講道館柔道(1)  
定価 16,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-047-2
- 第五巻 講道館柔道(2)  
定価 26,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-048-9
- 第六巻 講道館柔道(3)  
定価 18,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-049-6
- 第七巻 講道館柔道(4)  
定価 19,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-050-2
- 揃定価 124,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-051-9

体育・スポーツ書集成 好評既刊書（分売あり／A5判／上製函入／クロス装）

第Ⅰ回 戦後保健体育指導書 全七巻

尾川 翔大 解説 2017年6月25日刊行  
揃定価 93,500 円（税別） ISBN 978-4-87733-983-8

第Ⅱ回 戦後学校武道指導書 全五巻

矢野 裕介・坂本 太一 解説 2017年11月25日刊行  
揃定価 66,500 円（税別） ISBN 978-4-87733-989-0

第Ⅲ回 国民体力向上関係書 全八巻

尾川 翔大・矢野 裕介 解説 2018年5月25日刊行  
揃定価 108,800 円（税別） ISBN 978-4-86670-020-5

第Ⅳ回 明治期体操学校 体育・体操書 全六巻

神田 俊平 解説 2018年11月25日刊行  
揃定価 96,000 円（税別） ISBN 978-4-86670-027-4

